



▲さまざまな種類のひな人形が来場者を迎えました。

さくらが満開のおひなまつり

3月31日から「尼子の里のおひなまつり」、「白椿の里のおひなまつり」、「城下町母里のおひなまつり」が開催されました。期間中は、さまざまな年代のひな人形を家々の軒先に飾り付け。そのひな人形を横目に武者行列や子どもみこしなどが行われ多くの人でにぎわいました。

当日は天候に恵まれ桜が満開。ピンク色のきれいな花とひな人形が色鮮やかに会場周辺を彩っていました。

布部交流センターでは似顔絵イラストレーターの「やましたまほ」さんによるイベントを開催。似顔絵を描いてもらった人は自分の絵をうれしそうに眺めていました。



安来の玄関・ 観光交流プラザが10周年

JR安来駅に隣接する観光交流プラザ「アラエッサ♪YASUGI」が平成20年にオープンして以来、10周年を迎えました。その節目を記念した誕生祭が4月7日、プラザ内で開催されました。当日は来場者に紅白さくら餅が配られたほか、情報科学高



まちの話題や出来事を紹介します



古代出雲王陵の丘から撮影した夕日と満開の桜。空と湖面に広がるオレンジと淡いピンクが辺りを包み込んだ贅沢なひと時を過ごすことができました。

今月の一枚



◀情報科学高校の皆さんは演奏や歌で10周年を盛り上げてくれました。

校吹奏楽部の演奏や安来節保存会が安来節を披露。訪れた多くの市民や観光客が足を止めていました。

二岡みえこさん(切川町)は「観光交流プラザの建物は、梁や柱などに太い木材が使われ島根らしさを感じられます。県外の人には、駅に降り立ったら安来節のまちだとよくわかる」と言われたことがありますよ」と話していました。

現在、同プラザでは安来市観光協会などが観光案内や特産品販売などを行っています。平成29年度は約25,000人以上の方に観光や交通案内などの対応にあたりました。



◀ シュートごとに大きな歓声が。

バスケットBリーグ 安来で開催

プロバスケットボールB1公式戦が3月11日、安来市民体育館で開催され、1,912人の観客が国内最高峰の試合に酔いしれました。

強豪・千葉ジェッツをホームに迎えた島根スサノオマジック。序盤こそリードを奪いましたが、ミスが重なり逆転負け。それでも選手たちの気迫あふれるプレーに終始大きな歓声が送られていました。

ミニバスケットクラブ赤江フェニックスに所属する角琥心くん(安田小4年)は「どの選手もテクニックが正確で早い」と興奮気味に話していました。

消防団に新たな顔ぶれ

火災発生時等に活躍する消防団の入退団式が4月8日に開催されました。式には近藤市長をはじめ、曾田安来警察署長や田中市議会議長も出席し日頃の活動への感謝と激励を述べました。

式の後、入団者は初任者訓練があり、団員としての心構えや整列方法などを学習。新入団員は真剣な顔つきで取り組んでいました。

今回、30人が退団し、29人が新たに入団。これにより団員数は女性25人を含む700人となりました。消防団は、まだ定員に達していないため今後も入団者を募集しています。



◀ 初任者訓練でホースの扱い方を学びました。

ひな人形に願いを込めて

4月8日、広瀬紺センター前の河川敷で「尼子の里富田のひな流し」が行われました。会場では振り袖姿の子どもも見られ、その場の雰囲気華やかさを添えていました。

晴天に恵まれたこの日は350人が参加。参加者は願い事を書いた紙と生花を棧俵に乗せて、願いが叶うよう祈りながら飯梨川へ流しました。

振り袖を着て参加した池田寿々乃さん(広瀬町・5歳)は「初めてひな流しをして楽しかった」と話していました。



◀ 華やかな振り袖姿の参加者。

▶ 知事から感謝状を受け取る坂田さん(左)。



県人会坂田さん知事から感謝状

県政の発展に尽力したとして、神奈川県横浜市の坂田一郎さんに県外在住の県政功労者として溝口知事から感謝状が贈呈されました。

大塚町出身の坂田さんは、長年にわたり東京島根県人会の理事として会の運営に積極的に携わりました。また、50代の頃から東京安来会の理事としても活動し、安来や島根県出身者同士の橋渡し役を担っていました。

坂田さんは、「年を取る度にふるさとへの思いは増します。少しでもふるさとの役に立ったのがうれしい」と話していました。